

令和6年度第1回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和6年10月28日（月）15:00～16:53

場所：土佐市複合文化施設つな一で 3階 大会議室

出席：委員23名中、20名が出席

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）仁淀川地域アクションプランについて

1）第4期仁淀川地域アクションプランの取り組みの総括について

2）第5期仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

3）第5期仁淀川地域アクションプランの修正について

（3）「共働き・共育て」の県民運動の推進について

（4）産業成長戦略について

観光振興の取り組みについて

議事（1）～（4）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）仁淀川地域アクションプランについて

1）第4期仁淀川地域アクションプランの取り組みの総括について

2）第5期仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

(No.20 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進)

(松木委員)

仁淀川流域は、仁淀川を中心に交流人口を増やそうということで、かなり力を入れていると思う。仁淀川は透明度や清流で全国的に有名になったが、ここ4、5年は日本一ではない。単純に考えれば、5年前に比べると透明度は落ちてきていることになる。今年は国土交通省が、四万十川を1位に選んでいる。少し気になって調べてみると、四万十川は、あまりにも仁淀川が脚光を浴びているため危機感を抱いて、透明度が高くなるように清掃も含めて、かなり力を入れたらしい。

国土交通省が、生物化学的酸素要求量か何かを基準に透明度を決めているらしいが、県ではどのような調査をしているのか。今後、清流、透明度日本一を取り戻すためには、どうしたら良いと考えているのか、お伺いしたい。

(信吉地域産業振興監)

本日は担当部署が参加していないが、自然共生課が清流保全に取り組んでいる。国土交通省も仁淀川の保全を進めているが、透明度をどのように調査しているか調べてみたい。いただいたご意見を自然共生課に共有して、また仁淀川が透明度1位になるように協力していきたい。

(松木委員)

これはぜひやってもらいたい。仁淀川は透明度の日本一と仁淀ブルーで全国的に有名になった。今のところ仁淀ブルーというものは継続できると思うが、透明度というのは、放っておくと元へ戻るのは厳しいと思う。

一つだけ調査してもらいたいのは、国土交通省がどの時点で水質を調査して透明度を決めているのか。それが分かれば、上流を何とかしないといけないなど、色々なことが分かってくると思う。仁淀川へ来てもらいたいと言うのであれば、自信を持てる仁淀川にするべきだと思うので、ぜひそういうことも含めて取り組んでももらいたい。

(信吉地域産業振興監)

しっかりと伝えて、1位奪還に向けて努力したい。

(板原座長)

清流日本一というのは、確か3、4年逃していると思う。承知してる範囲では、仁淀川の水量が関係していると聞いている。BOD（水の汚濁指標）などの数値に影響するので、水量が増えたら変わってくるのではないかということは聞いているが、詳しくは県で調査していただけたらと思う。

(No.5 越知町における食用山椒の産地振興)

(小田委員)

山椒について、今後担い手と農地の面積を増やして、栽培地を拡大することが課題になってくると思うので、ご指導をお願いしたい。

(中央西農業振興センター高吾農業改良普及所 松岡所長)

越知町山椒組合やヒューマンライフ土佐の総会に行ったとき、組合員の出席率の高さに驚いた。農地の整備等をしながら、効率化を図り、産地を拡大していくという方向で、役場ともしっかり議論させていただきたい。

(No.19 「まきのさんの道の駅・佐川」を活用した交流人口の拡大と地域の活性化)

(大山委員)

道の駅と観光協会に関わる場面で、引き続き県のご支援をお願いしたい。

町や財団（しあわせづくり佐川）と協議しながら実施しているが、課題としては、町全体、特に道の駅で売るものや食べるものの提供がまだまだ弱いと考えている。地元のオリジナル商品や農産物の供給力については、はちきんの店の計画とリンクしていると思うが、はちきんの店は高知市内にあった直販所を昨年1カ所閉店、今年はさらに1カ所閉店して、商品を道の駅へ回すというような対策を取っている。根本にある供給する商品づくりと安定供給できる形がリンクしていないと一生懸命やっても限界があると思うので、そこのバランスを取りながら実施していくようお願いしたい、そして、我々も努力をしていかななくてはならないと考えている。

道の駅の現状でいうと、道の駅という分野とおもちゃ美術館や子ども公園という遊びの分野、公共トイレといった部門が一つの駅を構成している。道の駅の部分だけではなく、全体の議論の中でより特徴を強めていけば、一体的な計画としてうまく生かさせていける方法があるのではないか。

観光協会としては、色々なイベントにできるだけお客さんに来ていただき、おもてなしをして、リピーターにつなぐということで協力したい。受入れの拠点になっている浜口邸への入館者数は5月末で約8万3,000人であり、昨年の約75%である。道の駅を訪れた方が浜口邸に寄り、浜口邸を訪れた方が道の駅へ寄るといったことにより、浜口邸の入館者数は、昨年の約75%となり減少が抑えられている。そういったものをさらに強めていく余地がまだあると思う。今後、我々も気を付けながら、道の駅のイベントへのバックアップやフォローもしたい。町の指定管理施設の運営はもちろんだが、その他にも地質館や青山文庫等とは営業時間の打ち合わせをしながら取り組んでいるので、そういう面のうまく回る仕組み作りも大事なことだと考えている。

(信吉地域産業振興監)

道の駅という、品揃えが事業の大きな要になっている。道の駅ができてはちきんの店の会員が100人増加し、現在約300人になっている。そのうちの約180人が出荷するという状況であるが、夏場に野菜がない、夕方に行ったら商品がないという状況もあるため、品揃えの充実に取り組む必要がある。はちきんの店の売り上げが道の駅の大体2割を占めるようになっており、道の駅にとっては、はちきんの店は切り離せない重要な組織となっている。

先ほど大山委員がおっしゃられたように、商品づくりと安定供給のバランスというところでは、ただただ作ったものを出品するのでは常時商品が集まらない状況になる。例えば、はちきんの店の会員さんが集まる場で、栽培計画のようなものを立てて、年間を通じて色々な野菜や産直產品が出品できるような体制を作っていけるようにしたい。高吾農業改良普及所の松岡所長とも連携しながら、そういった体制に向けて取り組みたい。

イベントの関係については、今のところ、道の駅から町内への周遊につなげることは十分にできていないと思っている。そこは大きな課題であると考えており、観光協会にも連携をしていただいて、どのように道の駅から町内、上町地区へつなぐかという周遊の仕組みづくりを一緒に考えていただきたい。

(No.10 「土佐和紙」の販売促進)

(松岡委員)

ひだか和紙有限会社が世界一薄い和紙の取り組みをしており、これから海外への輸出にも取り組んでいくという中で、商品を展示するものに対する補助はあるが、実演して海外の美術の方に見てもらうようなものに対しての補助がないという話をお聞きした。それは、販路拡大をするために必要なことではないかと感じたので、村もそうだが県にも協力いただきながら、そういうことも考えていただければ、土佐和紙の魅力も広がっていくのではないかと感じた。

(工業振興課 筒井課長補佐)

土佐和紙については、工業振興課で販路開拓に係る取り組みへの補助制度は作れていない状況である。どちらかというと、後継者を育成するための補助金に力を入れているが、今後は、販路開拓についても検討をしていきたい。今すぐやるという話はできないが、大事なことだと思うので、産業振興センター等の補助金を使えないか等も含めて検討していきたい。

(No.21 土佐市における体験型観光と食観光の推進)

(笹岡委員)

今年は、どっぷり高知旅ということで、宇佐の町歩きを提案したところ、県にコースとして選定してもらった。今のところ、その町歩きだけになっているが、地元でも議論しながら伸ばしていけるところは伸ばしていこうと思っており、その中でも、食の観光に力を入れてはどうかと思う。新鮮な魚がその日に捕れて、魚屋へ行ってすぐ食べられるというのは、特に観光で高知県に来られる方や関西圏の方にとっては非常に素晴らしいこと。受入態勢も大事だが、旅行者にとっては、食べることは非常に重要視されるところでもあるので、もっと食、魚を押し出したプランを造成していくと、非常に魅力のあるツアーを組めるのではないかなと思うので、ぜひそういうプランを積極的に進めていただければありがたい。

特に土佐市は宇佐の市場から魚も集まり、隣に須崎と高知の市場もある。どこからでもそのときの新鮮な魚が集まる町は全国的にも非常に珍しい。私も色々な場所に旅行に行くが、これほど魚が毎日おいしく食べられる町はないので、ぜひそういうものを押し出すプランがあれば、関西圏の方たちが非常に喜ぶと思う。

(信吉地域産業振興監)

お話があった、おすすめどっぷり高知旅コンテストで、土佐市ドラゴンガイドチームの宇佐ぶら食べ歩き探検は、全体的にレベルが高かった中で選ばれており、この体験メニューが売れるようになれば良いと思っている。

食の観光の部分について、新鮮な魚を押し出したプランの造成を県全体の取り組みとしていってはどうかというお話もあったが、地域本部としては、観光商品づくりにアドバイザーの派遣もできるので、ぜひ土佐市発で取り組んでもらえたらと思う。県全体の取り組みとしては、そういった声があるということを観光振興スポーツ部に伝えるようにする。

(No.20 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進)

(大原委員)

仁淀川流域の6市町村でも観光促進や周遊促進に取り組んでいるところだが、何が足りないかというと宿泊所が一番足りない。宿泊場所の確保や色々なところに宿泊場所を作る取り組みをお願いしたい。

今後、仁淀川町にあるゆの森がホールを改修して客室を増やす。それはなぜかということと供給が追いついていないから。宿泊施設はお金になる箱物なので、そういうところも観点に、県にも検討していただけたらと思う。

(地域観光課 仙頭課長)

仁淀ブルーの効果でお客さんはたくさん来ているが、大きなホテルが少ないので、取りこぼしているのではないかと懸念や指摘がある。客室総数ベースで見ると、高知市エリアと比べて仁淀川エリアは10分の1ほど。ただ、今後大きなホテルをいくつも建てるということは現実的ではないと思う。先ほどご紹介いただいたように、少しでもキャンパシティを増やしたり、ここ数年、仁淀川沿いに、1棟貸しやゲストハウスのような付加価値が高い宿も増えてきたように思うので、そういった小規模な宿泊施設の要望があれば、支援できる枠組みがあるので、県の観光振興スポーツ部でお受けする。

現在、仁淀川町でも分散型ホテルの取り組みや、池川エリアで山のめぐみ舎を中心に、そういった取り組みを進めている。地域の実情に合わせた形で、過大な投資にならないようなやり方について、色々とアイデアがあると思うので、お気軽に相談いただければ対応していきたい。

3) 第5期仁淀川地域アクションプランの修正について

意見交換等、特になし。

(3) 「共働き・共育て」の県民運動の推進について

(戸田委員)

娘が里帰り出産ということで自宅にいる。昔は専業主婦のお母さんがしっかりと娘と孫の面倒を見たというケースがあるが、私自身は働いており、しっかりとケアはできないため、娘の夫に育休を取ってもらい、私の家に1カ月滞在をしてフォローをしてもらっている。非常に良い点が2つあり、娘が夫に頼ることができるだけでなく、私からもフォローを受けられ、精神的に安定して育児ができているという点と、娘の夫も赤ちゃんのときから子どもに接することができ、愛着感情が高まっているという点が見て取れる。きっと共育てにつながっていくだろうということで、育休の取得は非常に良い施策だと思っている。一方で、入り口であり、そこから2人の子育てが続いていくとすると、色々なバックアップが必要になる。それは金銭的な支援や社会の意識の変化だけでなく、企業側の理解と対応が必要になってくると思う。私自身が小規模事業所を経営していて、これだけ育休の素晴らしさ、大切さが分かっているけど、男性社員がいざ数ヶ月の育休を取得すると、社員1人1人のウエイトが高いということもあり、非常に厳しい現実がある。なんとか実施してはいきたいが、できないジレンマを企業側も抱えているということをご理解いただいた上で、その辺りのフォローなどをしていただければ、非常に良いと思っている。

(信吉地域産業振興監)

男性の育児休業取得率を上げることで女性の負担を軽くしていけるといえるところはある。

県庁では90%近い取得率になったが、県庁の組織と民間の組織では少し違いがあると思う。育児休業を取ったときの代替職員にかかる人件費や環境整備にかかる支援制度もできているので、民間企業の皆さま方にもぜひ活用していただきたい。

また、「共働き・共育て」推進宣言企業の登録制度を検討しているということなので、ぜひ参画していただくようお願いしたい。

(4) 産業成長戦略について

観光振興の取り組みについて

(板原座長)

東京に人口が一極集中していることはご存じだと思うが、郊外に子育て世代が集中して、東京 23 区では小学校や中学校の生徒数が少ないらしく、中学校の修学旅行は狙い目だという話を聞いた。また、100 人程度を受け入れられたらよく、特に交通至便の仁淀川エリアは非常に有効ではないかという話も提案いただいた。東京は人口が多いので受入れは無理だと最初から除く必要はないのではないかなと思う。縁を使って呼び込んでくることも意義があるのではないかなというご提案をいただいた。特に、仁淀川は高知市に近く、宿泊の受入れが無理だとしても素材は豊富にあるので楽しんでもらえる。

(信吉地域産業振興監)

市町村もそうだが、観光協会とも連携が必要になってくると思う。ただ 100 人規模で来られたときに、それに対応できる宿泊施設がないので、そういった場合には、仁淀ブルー観光協議会等を通じて、来る人を分散させるようなことも可能かもしれない。実際にそういうお話があるのであれば取りにいくということで、仁淀ブルー観光協議会の理事会等でも提案して検討したいと思う。

(松岡委員)

日高村の新日下川放水路はインフラツーリズムということで、観光地化を目指して動いている。土佐市・いの町の治水施設も含めて学習旅行の良い素材になるのではないかなと思っている。ちょうど修学旅行の話が出たので、併せて考えていただければありがたい。

(信吉地域産業振興監)

そういう話がいくつも出てくれば、例えば仁淀ブルー観光協議会が素材をまとめてデータベースにする等といったことは可能ではないだろうか。

(板原座長)

土佐市ではホエールウォッチングで海の体験ができるだけでなく、山の体験やキャンプ場もある。そこを分散させることで色々な工夫はできるのではないかなという話も出ている。

(大原委員)

ご意見をいただいたとおり分散型で受けるのも手かなと思うので検討していきたい。

(以上)